

あけのほし 2013 年 9 月

「感謝の力」

菊田行佳

「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」

(フィリピの信徒への手紙 4 章 4 - 7 節)

キリスト教の特徴の一つに、今回挙げた聖書のように、いつも喜んで、何事にも感謝をするということが挙げられます。これは、一日一日、すべての時と場所で、常に神さまからのお恵みを感謝して過ごすのだというものです。こう言うと、なんだかとてもあっさりしていて、簡単なことのように言っていますが、実際は、実に難しいことだということが、やってみると分かることです。毎日毎日、本当に心から感謝できることが、あるのだろうか。いい日ばかりでなく、出来れば避けて通りたいことだって一日の内にも、何度かはあるわけです。本当に今日は充実して過ごせたなと思える日が、一年の内で何度あるでしょうか。それよりも、今日もひどい一日だったと、不平の漏れる日の方が、圧倒的に多いというのが、私たちの現実なのだと思います。

しかしそのような私たちの満足できない日常のただ中に、神さまは日々、恵みを与えて、生かして下さっている。そのような視点に立つようと、聖書は私たちを促します。このことは、自分のことよりも、他の人の姿に視線を移す時に、よりはっきりと、そのことの意味が分かってくると思います。

自分の目から見て、どう考えても恵まれているとは思えない、大変苦勞を多く背負われている方とうのは、やはりいるわけです。しかし、その自分の目からはとても恵まれていないといくら見える人においても、神さまは、日々のいのちを与えて、働きかけているのです。そのような視点で見ますと、簡単に誰々の人生はかわいそうだななどと、言うのはダメなんだと考えさせられました。私は、何かあると、「どうして神さまは、あのような重荷を、この人に負わせるのだろうか」と、思っていました。しかし、それは、私という小さな目で見ているものであって、本当には、その人の立場には立てていなかったのです。たとえその方が、大変な重荷を背負って人生を歩んでおられているのであっても、その方がその人生を肯定している限り、他人が可哀想だとか、何だとか、とやかく言えるものではないのだなと、思われたのです。どのような苦しみの中を歩んでおられようとも、自分が大切にしている、何かしらが、あるわけです。そのことも考えずに、可哀想だとか一方的に決めつけるのは、傲慢なことであったのです。どのような人生であっ

でも、そこに、神さまがいどんでくださって、お恵みをお与えになってくれる。そのような目で見なくてはダメなんだと、考えなおさせられたのです。

ある時、神の国は、いつ来るのかと問われたイエスさまは、神の国は、すでにあなた達の間に来ているのだと、答えられました。私はそのことがまだ、よく分かっていませんでした。そのような、神の国の間に、すでに私たちすべての人間は、生かされているのだと言うのです。どのように辛いことが多いように思えるそれぞれの人生においても、神さまは、与え方は違ったのだとしても、ちゃんとお恵みを、毎日注いで下さっているのです。そのような視点を見失ってしまえば、どのような恵みも、恵みとして受け取れないのだというわけです。

これは本当に、私自身がそうなのですが、ついつい、現状に与えられているお恵みに、気が付かないということがあります。もっともっと、欲しい、欲しいという思いがいっぱいになってしまって、実際に与えられているお恵みを、なんだか当たり前のものとして、恵みだということを見失ってしまってしまうのだと思います。先日、教会の祈待会の中で、ある方が、神さまを知るといふごとに、日々の生活を、感謝をすることだと思いと、おっしゃいました。私はそれを聞いて、自分は、毎日、感謝をしていたがるかと、振り返らせられました。私は感謝ではなく、不満を言っていることの方が、圧倒的に多いのではないかと、突きつけられたというわけです。

自分の狭い視線で、神さまの為される御業を見てしまえば、神さまに感謝が出来ない、不平や不満ばかりの閉ざされた生き方になってしまいます。特に自分のことを見る時、もっと大変な方がたくさんいることを思えば、自分の大変さなんてたいしたことにはないのに、外を見ようとしないうちで自分がいるわけです。神さまの恵みのお働きは、自分一人で生きているわけではないということに導いて行きます。今、ここで、神さまの御手が、一人一人に恵みを注いでいることに目を注がない限り、自分の与えられているいのちを、本当に狭いものにしてしまうでしょう。一見、その人が、怠けていたり、何か悪いことをしたから、そのような苦勞をする羽目になったのだと、思いこんでしまいます。そこには、私たちに与えられているお恵みを閉ざしてしまった、暗闇の世界が広がってしまうでしょう。

神さまが与えてくれているお恵みは、人それぞれ違っているでしょうが、確かに、私たち一人一人に、日々与えられているのです。毎日やって来る嫌なこと、避けて通りたいことの中にも、神さまのお恵みは、隠れているのです。そのことを、感謝して、一つ一つ受け取って行くところに、力が湧いてきます。それは、自分の人生を、日々、肯定する力です。毎日訪れるほんの些細な悩みであっても、そのことを恵に変える力がそこにあるのです。それは結局、自分と関わるすべての人々と繋がっている人生を、感謝する力に変わります。その時、その時感謝して喜ぶことは、周りの人を、大きな喜びのいのちに巻き込むことになるのです。このことを、私自身も心から受け取って行きたいと思いました。